

『外邦測量沿革史草稿』第 18 巻～第 20 巻について

牛越（李）国昭

村上手帳、外邦測量の解析のために新たな資料はないものかと探っていたところ、今年 10 月下旬、NACSIS Webcat の検索サイトで、良く知られている復刻版『外邦測量沿革史草稿』とは別に、『外邦測量沿革史草稿』第 18 巻～第 20 巻というタイトルのものが示された。アジア経済研究所図書館所蔵であったので、11 月初め出向いて閲読したところ、『外邦測量沿革史草稿』第 12 中編(第 18 巻)、第 12 下編(第 19 巻)、第 13 前編(第 20 巻)の原本合本であり、1918～1919(大正 7、8)年の外邦測量について取り扱ったものであることがわかった。

3 巻とも表紙に極秘とあり、発行は参謀本部・北支那方面軍司令部である。

『外邦測量沿革史草稿』第 12 中編(第 18 巻)は、1941(昭和 16)年 7 月刊行で、副題に「大正七年度記事(臨時土地調査班支那駐屯軍測量班)」とある。本編の前半は、1918 年臨時外邦測図班の活動の記録で、測量対象地域は中国東北北部(「北満州」)・ロシア=ソ連邦の国境地帯となっている。第一次世界大戦とそれに続いた 1917 年ロシア革命という情勢の中でシベリア地域にまで立ち入って測量しようと、かつての臨時測図部編成のような大規模なものではないが、本部班+4 班 62 人の臨時外邦測図班が編制・派遣された。後半は外邦測量班=中国(「支那」)派遣軍司令部特別測量班活動の記録で、1918(大正 7)年度外邦地形測量作業概要以下、5 組の編成表、また各組の報告書類が収録されている。測量地域は中国东北部・モンゴル地域であった。また雑録、既往ノ雑話があり、外邦測量班員が第 2 臨時測図部員として動員され、第 2 臨時測図部本部に到着したときの口羽第 2 測図部長と村上千代吉ら班員とのやりとりの様子が記録されている。

『外邦測量沿革史草稿』第 12 下編(第 19 巻)は、1941 年 12 月刊行で副題に「大正七年度記事(西伯利出兵臨時測図部ノ行動)」とある。本編は、シベリア出兵時の臨時測図部班のうち、第一臨時測図部の活動の記録が収録されている。シベリア地域での革命派と反革命派と

の闘争、列強各国のシベリア出兵という状況の中で、ソビエト革命派(「過激派」)と遭遇したりしながら測量を行った記録が収められている。

『外邦測量沿革史草稿』第 13 前編(第 20 巻)は、1942 年 1 月刊行で 副題に「大正七八年記事続編ノ臨時測図部ノ行動」とある。本編は、シベリア出兵時の第二臨時測図部の活動記録が収録されている。

冒頭、「緒言」として「東部西伯利ノ測地」があり、「……欧州の戦乱は惹ひて東洋に波及し大正 7 年遂に西伯利の出兵となり之に伴い第一第二臨時測図部編成出動に至る而して其測圖地域は東部西伯利北緯五十五度以南より漸次南に露満国境及北満州の一分東は『ハバロフスク』を基点として西は『イルクーツク』州に至る此以南『セシガ』河の沿岸及国境『キャフタ』 城に至る」と、シベリア出兵時臨時測図部活動の範囲が示されている。

これまで『外邦測量沿革史』は、甲午(日清)・日露戦争時と 1907～1908 年の臨時測図部活動の記録である『外邦測量沿革史草稿初編』の復刻版が刊行されている。その緒言に、1894～1912 年を第 1 期、大正年間を第 2 期、昭和年間を第 3 期としてまとめていくことが書かれているが、第 2 期以降のものは存在すること自体が知られていなかった。今回見つかった『外邦測量沿革史草稿』第 18 から第 20 巻は、1918～1919 年の 2 年間とはいえ、初めて大正期の外邦測量の詳しい資料ということ、特別測量班による秘密潜入測量=盗測のまとまった資料、シベリア出兵時臨時測図部活動の資料という点で貴重である。また、シベリア出兵時の臨時測図部活動では、測量技術的な側面でも大いに資料的価値があると思われる。各巻に村上千代吉の活動に関する記録があり、他方、1918～19 年の村上手帳との対照、特に第 2 測図部での活動は詳しい記述と対照することによって、この時期の村上手帳の解明にとっても大きな手がかりとなる資料である。

この『外邦測量沿革史草稿』第 18 巻から第 20 巻というタイトルの付けられかたからすると、復刻『外邦測量沿

革史草稿初編』各編は、それぞれ第1巻から第6巻に当たり、また冒頭の緒言に1939(昭和14)年とあることから、少なくとも7巻から17巻までが1936年から1941年までに刊行されているのではないかと言うこともできる。

アジア経済研究所所蔵のものには、各巻表紙に岡村の印がある。もともとの持ち主のものと思われるが、それは陸軍囑託・岡村彦太郎であろう。既刊復刻版『外邦測量沿革史草稿』初編でも、同第18巻～第20巻でも編纂者は明かされていないが、『外邦測量の沿革に関する座談会』(1936年)のなかで『外邦測量沿革史』が陸軍囑託・岡村彦太郎によって編纂されるとあるので、『外邦測量沿革史』の編纂者は岡村彦太郎であろうと推察される。

各巻の目次は次の通りである。

『外邦測量沿革史草稿』第12中編(第18巻)

- 一、参謀本部参密第三〇六號第一ノ臨時外邦測圖ニ関スル件通牒
- 二、臨時土地調査班作業計劃概要
- 三、附表
- 四、支庶第二八號ノ臨時測圖班ニ関スル通牒寫送附ノ件
- 五、参謀本部参訓第一九號 参謀総長ノ臨時測圖班ニ関スル件訓令
- 六、井上少佐ニ與フル命令ノ矢野目測量部長
- 七、臨時班ノ行動
- 八、各分班作業實施ノ概況 第一分班ノ概況
- 九、組員ノ行動
 - 一〇、第二分班ノ概況
 - 一一、第三分班ノ概況
 - 一二、業務實施景況報告 河野斯良
 - 一三、蒙古人及「支那」人ノ狀況
 - 一四、作業報告
 - 一五、第四分班ノ行動
 - 一六、第一二三分班ノ行動
 - 一七、山本榮蔵外二名行方不明ノ件報告
 - 一八、山崎大尉脇田測量手坂本通譯ノ遭難顛末
 - 一九、参謀本部参密第五〇〇號第一
 - 二〇、大正七年度外邦地形測量作業概要ノ(支那駐屯軍司令部附測量班員ノ部)
 - 二一、附表

- 二二、測圖計画及實施ノ經過 幹線測量
- 二三、表面測圖計画及實施經過 木欄表面測圖
- 二四、肇東縣地方作業
- 二五、塔爾哈站地方作業
- 二六、泰來縣地方作業
- 二七、東縣地方作業
- 二八、測地一般地形ノ狀態 幹線測量地帯
- 二九、第一組作業實施經過
- 三〇、第二組作業實施經過
- 三一、第三組作業實施經過
- 三二、第四組作業實施經過
- 三三、第五組作業實施經過
- 三四、測地一般踏査ノ現状
- 三五、作業一般ノ成果
- 三六、雜録
- 三七、既往ノ雜話

『外邦測量沿革史草稿』第12下編(第19巻)

- 謹告
- 一、第一二師團司令部参發第一八號
 - 二、第一臨時測圖部第一期第一回作業計画
 - 三、第一臨時測図部動員編成
 - 四、八月二十七日井上大尉ヨリ坪井少佐宛書翰
 - 五、第一臨時測図部長松本少佐ノ書翰
 - 六、九月四日松本少佐ノ書翰及第三信
 - 七、陸地測量部事務官ヨリ松本少佐ヘノ書翰
 - 八、松本少佐ノ第四信
 - 九、第五松本少佐ノ書翰
 - 一〇、電報 総務部長宛由井参謀長
 - 一一、第一臨時發第五九號ノ鹵獲圖々送附ノ件通牒
 - 一二、第一臨時測圖部長宛陸地測量部長ノ鹵獲地圖ノ精度調査ノ件照會
 - 一三、第六松本少佐ノ書翰
 - 一四、第七松本少佐ノ書翰
 - 一五、経緯度班ノ編成
 - 一六、第一臨時測図部ニ寫眞班ヲ増加スル件上申
 - 一七、寫眞班編成上ニ関スル要件
 - 一八、第一二師團測圖作業實施報告
 - 一九、過激派遭遇事件
 - 二〇、松本少佐ノ書翰

- 二一、慰問品ニ對スル稻田大尉ノ禮状
- 二二、印刷班ヲ編成シ第一二師團ニ配屬相成度件
上申
- 二三、矢野目測量部長ヘ井上大尉ヨリ現状報告ノ書翰
- 二四、第一臨時測図部履歷書
- 二五、「オリガ」灣地形調査録ノ陸地測量手谷田部庸之助
- 二六、地理調査録同 伊藤庄太郎
- 二七、同 大澤 健作
同 大西 壽吉
- 二八、同 神保 秀六
同 熊谷 健二
- 二九、第一臨時測図部第四班長 田中大尉提出地形調査録
- 三〇、附録 續既往雜話

- 二一、第二章 所感 其一編成
- 二二、經度測量
- 二三、帰心法
- 二四、外邦測量ニ伴フ各種ノ調査
- 二五、右ニ伴フ雜件
- 二六、貝加爾湖南岸地區地形偵察抜粹ノ歩兵第四十 附陸軍歩兵中尉森長
- 二七、「インゴダ」河谷 況偵察ノ第四地形班長陸軍歩兵大尉笹井泰造
- 二八、軍用輸送中ノ事故ノ(第二臨時測図部)
- 附録
- 二九、西伯利ノ地帯
- 三〇、後貝加爾州ノ概況

『外邦測量沿革史草稿』第 13 前編(第 20 卷)

東部西伯利ノ測地

- 一、第一臨時測圖部第二期第一回作業計劃
- 二、第二期第一回ニ於ケル職員編成表
- 三、第一臨時測圖部經緯度測量實施要領第二期作業報告
- 四、經緯度班第二期作業部署表
- 五、參考 測量器械ニ就テノ實況其他ノ經緯度班長井澤大尉
- 六、防寒被服
- 七、作業報告(經緯度第一區隊)
- 八、作業要領並ニ經過
- 九、所見 平木測量師
- 一〇、擔任地區作業報告 第一區隊長測量師
- 一一、作業報告 第二區隊 松尾測量師
- 一二、同 同 梅本測量師
- 一三、臨時第一測圖部測圖作業實施報告
- 一四、同 作業着表
- 一五、第二臨時測圖部動員及編成
- 一六、第二臨時測図部ノ行動
- 一七、第二臨時測図部作業計劃書
- 一八、第二臨時測図部測圖實施報告
- 一九、第二臨時測図部職員表
- 二〇、經緯度班ノ行動